

# 埋文よこはま15



財団法人 横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター 平成19年2月20日発行

## 原始・古代のムラを探る —北川貝塚を掘ってわかったこと—

### ◆貝塚の位置と調査の歴史

北川貝塚は都筑区早瀬三丁目、標高 25 m の丘上にあり  
ました。地元では「貝殻畑」と呼び、江戸時代末期の『新編武蔵風土記稿』の都筑郡吉田村に大きな貝塚があったと書かれています。

1930年代後半に  
大場磐雄・山内清男・  
酒詰仲男らの考古学者  
がここを発掘して縄文  
時代前期の住居や遺物  
を発見しました。ここ  
が前期の貝塚であるこ  
とがわかりました。

港北ニュータウン建設のため1980～83年に北川貝塚の大半を、93年に道路改築のため第三京浜道路東側の北川貝塚南遺跡の調査を行いました。ここが旧石器・縄文・弥生・平安時代の大遺跡とわかったのです。

### ◆旧石器時代の生活のあとと道具

2万年前には海面がかなり低くなり横浜北部は高さ200m前後の丘となっていました。ここでは台地中央部のローム層の中から小規模な石器製作あとが、南遺跡から石器と木炭粒が見つかりました。東地点では2



北川貝塚発掘の様子

万数千年前の始良テフラの下から、横浜では最も古い時期の石器が出ました。また鋭い刃をもつ安山岩のナイフが採集されています。

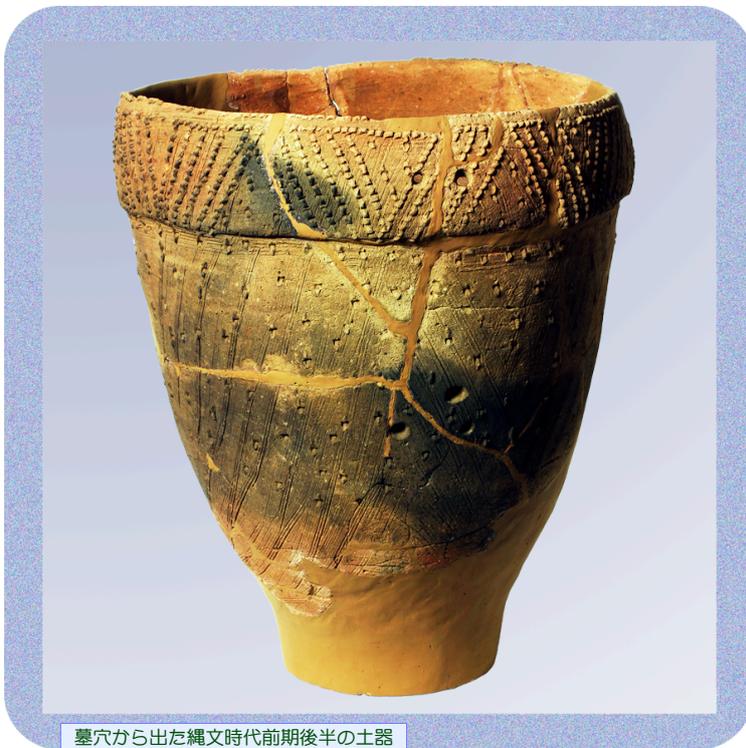
### ◆縄文時代のムラと貝塚

北川貝塚には縄文時代草創期末から後期前半までの土器が発見されています。ムラは前・中・後期に、貝塚は前・中期にのみ見つかりました。ここでは前期と中期を中心に紹介します。

前期初めのムラは台地中央部に竪穴住居が4軒、その前面に小貝層が数カ所あります。住居は方形で、炉があります。柱穴は貧弱ですが比較的大型です。住み終えて埋まった住居の凹地に食べた貝殻を集中的に投げ込んでいました。3軒には貝層があり、ハマグリ・カキ・ハイガイなど海の貝です。この時期の土器にはその中に繊維が含まれ、複雑な縄文が施されています。

前期後半には台地中央やや北寄りに竪穴住居20

数軒が径150mの広さに分布し、住居内貝層も多くなります。住居は小型方形の5本柱が中心です。壁の掘込みは深く、周囲に溝を巡らします。浅い炉がいくつもあり、同じ場所で何回も作ります。台地北東部の高みに大型の住居があり、ムラ全体の中心のようです。土器は断面が半円形の器具で引いた平行沈線や、



墓穴から出た縄文時代前期後半の土器



貝層のある縄文時代前期後半の住居跡

縄文の上に細い粘土紐の曲線文を巡らせています。前期末には三角形の刺突も行われます。また東関東や遠く関西地方の土器も多く混じり、盛んな交流をうかがわせます。貝は主としてハマグリ・カキ・ハイガイなどが出



縄文時代前期後半の土器  
縄文と平行沈線の文様をもつ

ます。シカ・イノシシの獣やスズキ・コチなどの魚も食料としていました。イヌの骨も見つっています。墓は住居のそばに楕円形に穴を掘りつくられます。足を曲げ、頭に底を抜いた土器をかぶせ、片腕に管玉を付けた人骨が見つかりました。このヒトは性別不明の成人ですが、県内では早期の横須賀市平坂貝塚人骨に次ぐ古さです。半完形の土器が出た穴は墓に間違いがないことがわかりました。

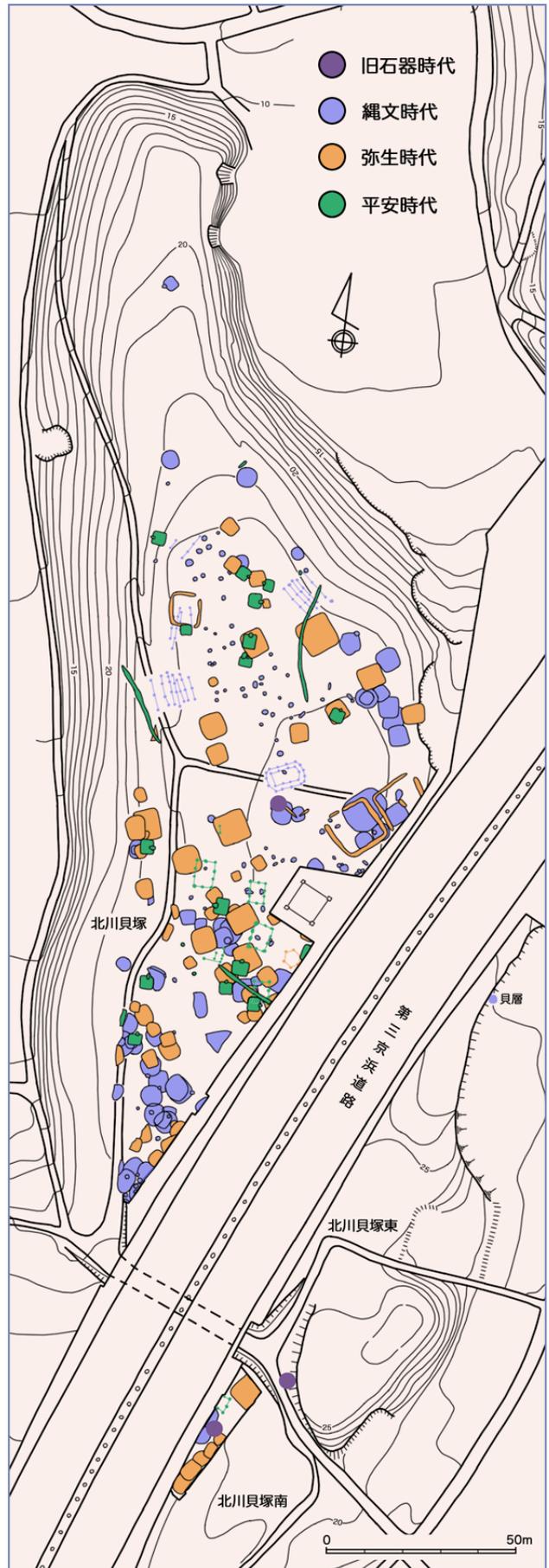
中期半ばのムラは南北 300 m の広さで、台地全体に及んでいます。竪穴住居は楕円形か円形で、周囲に溝を巡らしています。床の中央に底を欠いた勝坂式土器を埋めた炉が



縄文時代前期後半のお墓

あります。住居群は中央部から南部にかけて分布し、北部には掘立柱建物が円形に巡ります。その環の中心に東関東の阿玉台式土器を埋めた墓が集中しています。

中期後半のムラは台地南半部から南遺跡にかけてつくられました。住居の数は多くありません。隅円の五角形や方形で、溝を巡らしています。床面奥に石囲埋甕炉があり、出入口に土器を埋めています。古い段階では東北地方の大木式、後半には中部地方の曾利式の影響を受けています。この時期には早瀬川沿いの海は退いて淡水が混じり、



北川貝塚 各時代の遺構の分布

ヤマトシジミを主とする貝殻が住居跡や土坑に投げ込まれています。貝層下の床面から4体分の人骨が見つかっています。使われなくなった住居を墓にしたようです。第三京浜脇の1体は住居の端寄りに膝を曲げて横たえられ、頭と



縄文時代中期なかばの土器  
2つの把手と立体的な文様をもつ

足元に礫が置かれていました。人類学者の鑑定によれば「成人女性」だそうです。これらと離れた北部に中期末の住居1軒があります。楕円形で壁沿いに太い柱が巡り、中央の大きな炉の傍に当時は石棒が立てられていました。南側には張出し部があり、埋めた土器はなくなっていました。これに続く後期の住居の一部が南端部に1軒見出されています。

#### ◆弥生時代後期のムラ

弥生時代後期には第三京浜道路付近より上流域に朝光寺原式、下流域に久ヶ原・弥生町式土器が主に分布します。北川貝塚は下流域の西端部にあたり、弥生町式やその後の土器を使

う人びとが住んでいたようです。

この時期のムラは台地全面に広がり、竪穴住居65軒・方形周溝墓4基があります。失われた道路部分は遺構が一番密集し、



弥生時代後期の壺  
円形や棒状の浮文をもち赤彩されている

本来は総数100軒以上の大きなムラと思われる。台地東北部の高みに大型方形周溝墓が東西に並びます。それより南の竪穴住居は隅の円みが強く、北側は方形に近いものが多く、大半は出入口が東南を向いています。壁下に溝を巡らし、4本支柱・土手のある貯蔵穴・はしご穴をそなえています。火災にあった住居の床には屋根の垂木が炭として残り、使われていた土器がそのまま転がっていました。そのようすから、室内は作業・寝所・物置きなどの生活空間が分りそうです。北部住居群の西はずれに中型方形周溝墓が1

基あり、周溝内に割った壺の胴部をばらまいています。遺体を埋葬した主体部は1基のみです。周溝墓の被葬者は



弥生時代後期の火災住居 床面に多くの土器が残っていた

7・12・31号など大型住居の住人と考えられます。周囲には北川表の上・権田原・大原など同時期のムラが集中しています。

#### ◆平安時代のムラ

北川貝塚では平安時代前半にムラがありました。このムラの北部では竪穴住居を溝が囲い、中央部では2方向の掘立柱建物の南側に竪穴住居群があってその中を溝が横断しています。南遺跡には竪穴住居と掘立柱建物があります。竪穴住居は小型方形で壁溝を巡らし、北や東にカマドを設け、柱はあっても小規模です。掘立柱建物は長軸方向が南北で、東西3・南北4本の柱穴を巡らし、大規模な2・4号のうち4号は西側に廂があり、いずれもムラの中心的な建物とみられます。また2号住居は鍛冶炉があって製品や



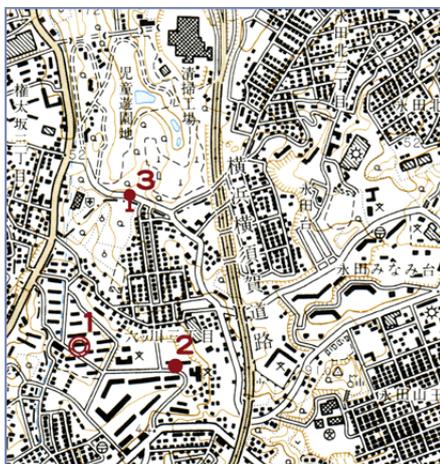
正面にひさしをもつ平安時代の掘立柱建物跡

鉄滓が出土し、まさに「村のかじや」だったようです。また二本線が墨書きされた土器や、東海地方産の須恵器や陶器が使われていますが、墓地は見つかりませんでした。

なお、さらに詳しいことが知りたい方は、港北NT発掘調査報告39の『北川貝塚』をご覧ください。



敗戦後から昭和 30 年ぐらいにかけて日本民族の起源に関連して縄文文化のはじまりが問題になっていました。それは最古の縄文土器を求める方向で多くの青年考古学徒の活躍を生み出した。大丸遺跡からその当時最も古い縄文土器の撚糸土器が出ることを注意したのは鎌倉学園生徒の中村嘉男でした。それを受けて明治大学考古学研究会の学生たちは昭和 26 年 11 月から

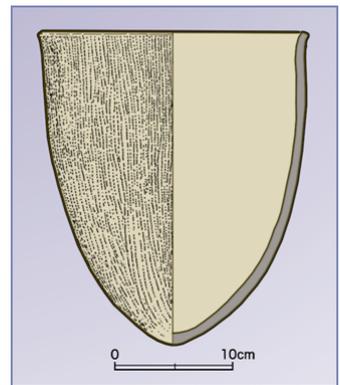


大丸遺跡のある場所  
 1 大丸遺跡 2 コミュニティーハウス  
 3 バス停 児童遊園地前

昭和 27 年 1 月にかけて発掘調査を行ないました。遺跡は南区六ツ川町大丸（現在の南区六ツ川三丁目 112 付近）にありました。北西から南東にはりだす台地の鞍部と北東に面する斜面に土器・石器などの遺物を包含する土層が形成されていました。その広さは 50 m × 30 m です。台地の標高は 82 m をはかります。遺跡をかこむ谷は南下してやがて東に向かい、井土ヶ谷の町に出ます。

発掘は遺跡をはしっていた道路の南と北にトレンチを入

れました。その結果、上層には無文土器を伴う稲荷台式が、中層には夏島式が、下層には井草式を伴う大丸式土器が堆積していることが分かりました。ここが大丸式の名おやの遺跡となったのでした。また多数の各種の礫器が出ています。炉穴



大丸式土器

も一つ発見されました。遺跡は団地の建物などが建設されて、壊されてしまいました。発掘した土器などは明治大学考古博物館で保管されています。

この大丸遺跡の名を残すために六ツ川三丁目に住まわれる方がたが「大丸式縄文土器保存委員会」をつくりました。横浜市児童遊園地と横浜市こども植物園へ行くのに近いバス停留所「児童遊園地前」を降りると目の前に鉄塔があります。その傍に「大丸縄文資料館」への看板と説明板があります。坂を下りながら鉄塔に注意していくと、縄文土器が付けられた資料板があるのが分ります。この道は「大丸縄文坂」と名づけられています。それを行くと六ツ川台小学校と六ツ川



大丸遺跡の解説板

中学校の脇に出ます。その途中で町内会館があり、「大丸式縄文土器保存委員会」が設けた大丸式土器の説明

板があります。現在大丸式土器に関する資料や付近から出た縄文土器は六ツ川台小学校の中のコミュニティーハウスの 1 階廊下に展示されています。ただし月・水・木・土・日曜日に開館しています。

### 埋蔵文化財センターのご案内

出土品や整理作業の様子を見学できます（予約が必要です）。埋蔵文化財や歴史に関する質問も歓迎します。

受付：午前 9 時～午後 5 時。土・日・祝日休み。

交通：東横線「綱島駅」より東急バス 1 番乗り場「勝田折返所」行終点。田園都市線「江田駅」より東急バス「綱島駅」行「勝田」下車。

ホームページアドレス <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/maibun/index.html>

jp/maibun/index.html

\*「埋文よこはま」は、横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

### 埋文よこはま 15

発行日 2007 年 2 月 20 日

編集・発行 財団法人 横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

〒224-0034 横浜市都筑区勝田町 760

TEL 045-593-2406

FAX 045-593-2403